



# 祐介の目

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.49

毎月1日号に掲載

インバレー構想の最初の一步になると目論んでいる。そして、井原市においてもワイナリーを立ち上げる動きがあり、福山市も連携中枢都市圏推進事業として井原市とのワインによる連携を模索している。この県境を越えた連携が成功するよう、井原選出の上田勝義県議と共に可能性を探っている。

## ワインバレー構想

千曲川ワインバレー構想は、エッセイストでありヴィラデストワイナリーのオーナーである玉村豊男さんが提唱し、多くのワイナリーが流域に集積しつつある。千曲川流域は降水量が少なく、日照時間が長いうえに気候と水はけが良く、土壌の質がワイン醸造用ぶどうの栽培に適している。

福山市山野町を流れる小田川は、芳井・井原と流れて総社で高梁川と合流する。この小田川の流域は元来ぶどうの産地が多く、千曲川流域と同様にワイン生産に適しているのではないだろうか。私は「ぶくやまワイン特区」の認可を受けて、9月16日にぶどうの収穫と「山野峡ワイン」の仕込みを行った。このワインは年末には飲めるようになるが、特区の制限として山野町の農家民宿「やまの宿・西元」に来た人しか飲めない。量としてはわずか300ℓ程度であるが、これが小田川

さて、ワインを作る以上に大切なのが、販路の開拓だ。例えば島根ワイナリーは出雲大社の至近、ひるぜんワイナリーは蒜山高原に位置し、多くの観光客が訪れて購入してくれる。福山でぶどうの産地と観光地がセットになっている場所は、沼隈のみろくの里や鞆だろ。八日合樹園地の主力であり、元々はワイン醸造用品種であるベリーAを使ってワインを作り、弥勒の里ワインや鞆の浦ワインとして売り出しているかがだろ。沼隈半島を流れる山南川ワインバレー構想として検討してほしい。

6次産業の代表格であるワイン作り、福山商工会議所においても「瀬戸内・福山の6次産業を醸すプロジェクト」を立ち上げ、私はもちろん、ばらの酵母を研究している福山大学生命工学部や世羅ワイナリー醸造も参加しており、今後の開発に期待したい。